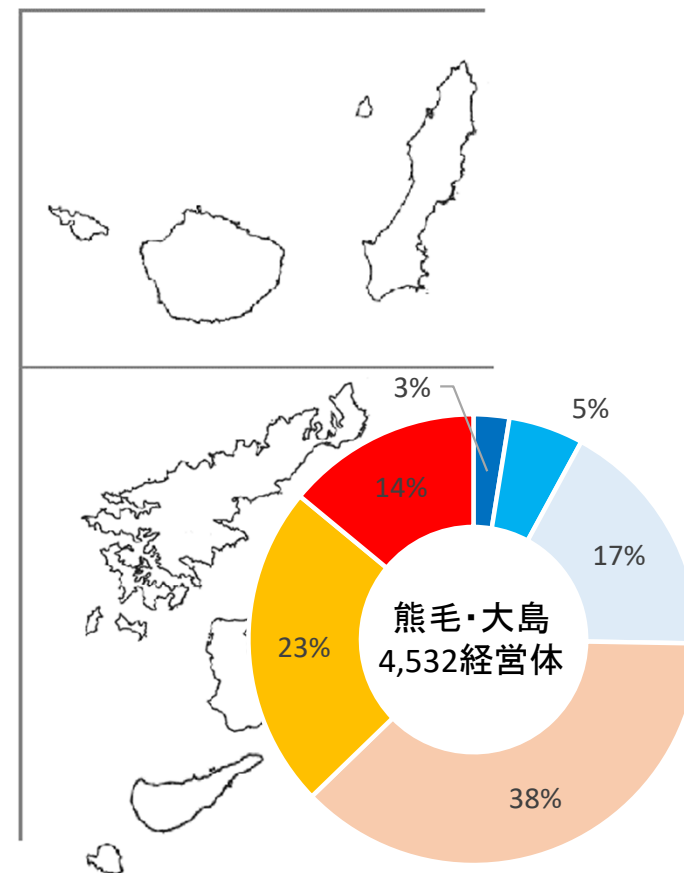
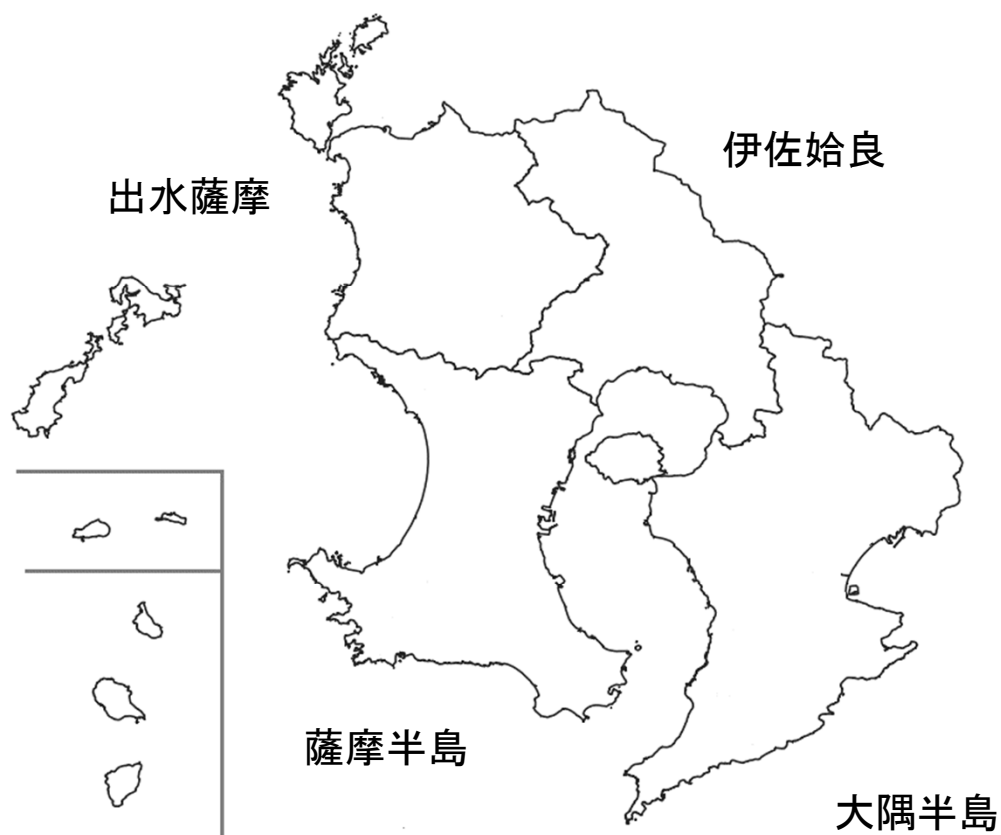


さとうきびに関する情報

- ・ 鹿児島県のさとうきびの経営体数
- ・ 新たな食料・農業・農村基本計画におけるさとうきび関係の記述
- ・ 現場からの主な意見・要望 など

令和8年2月9日
農林水産省九州農政局（鹿児島県拠点）

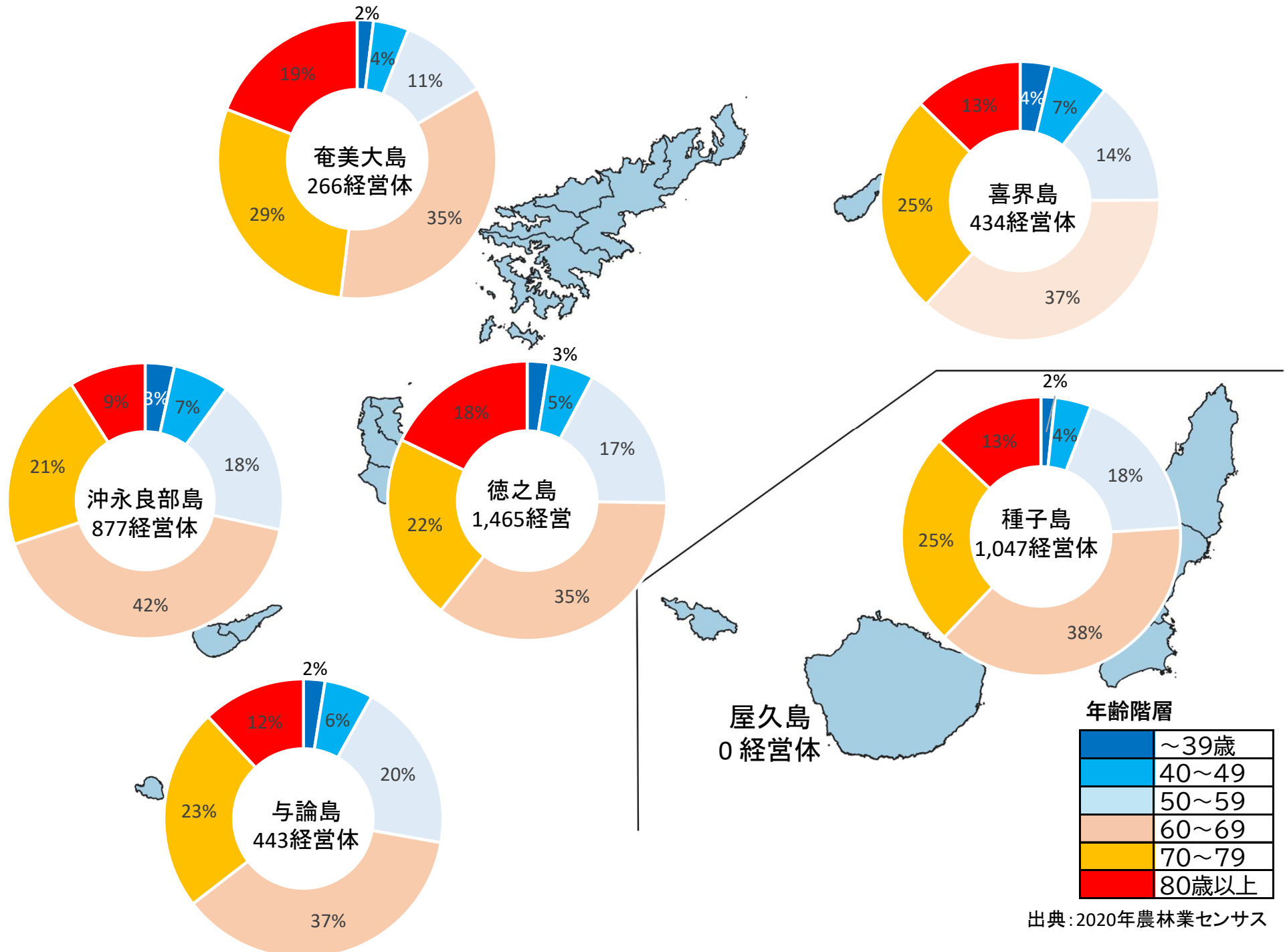
鹿児島県のさとうきびの経営体数（作柄表示地帯別・年齢構成別）



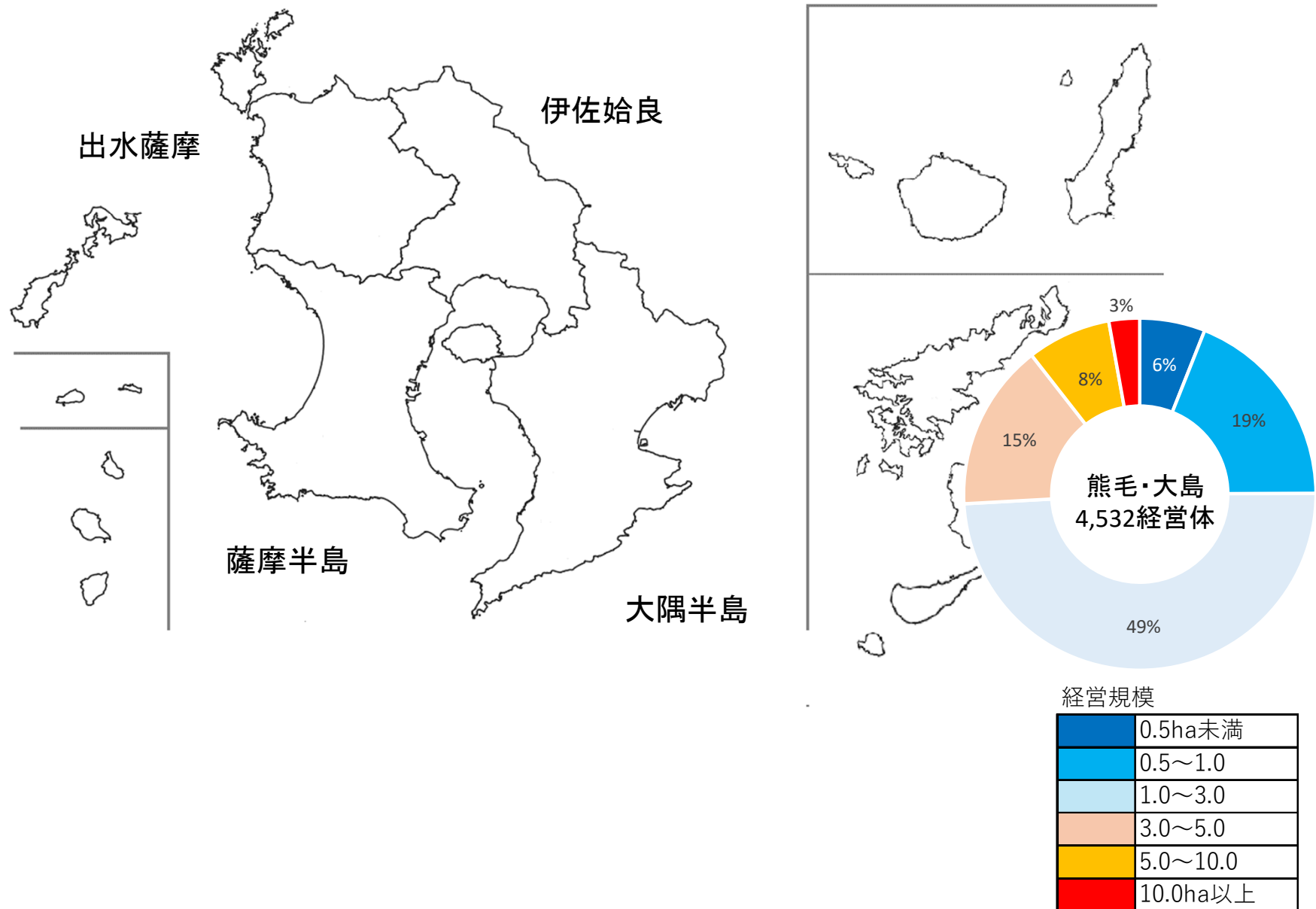
年齢階層

~39歳	3%
40~49	5%
50~59	17%
60~69	38%
70~79	23%
80歳以上	14%

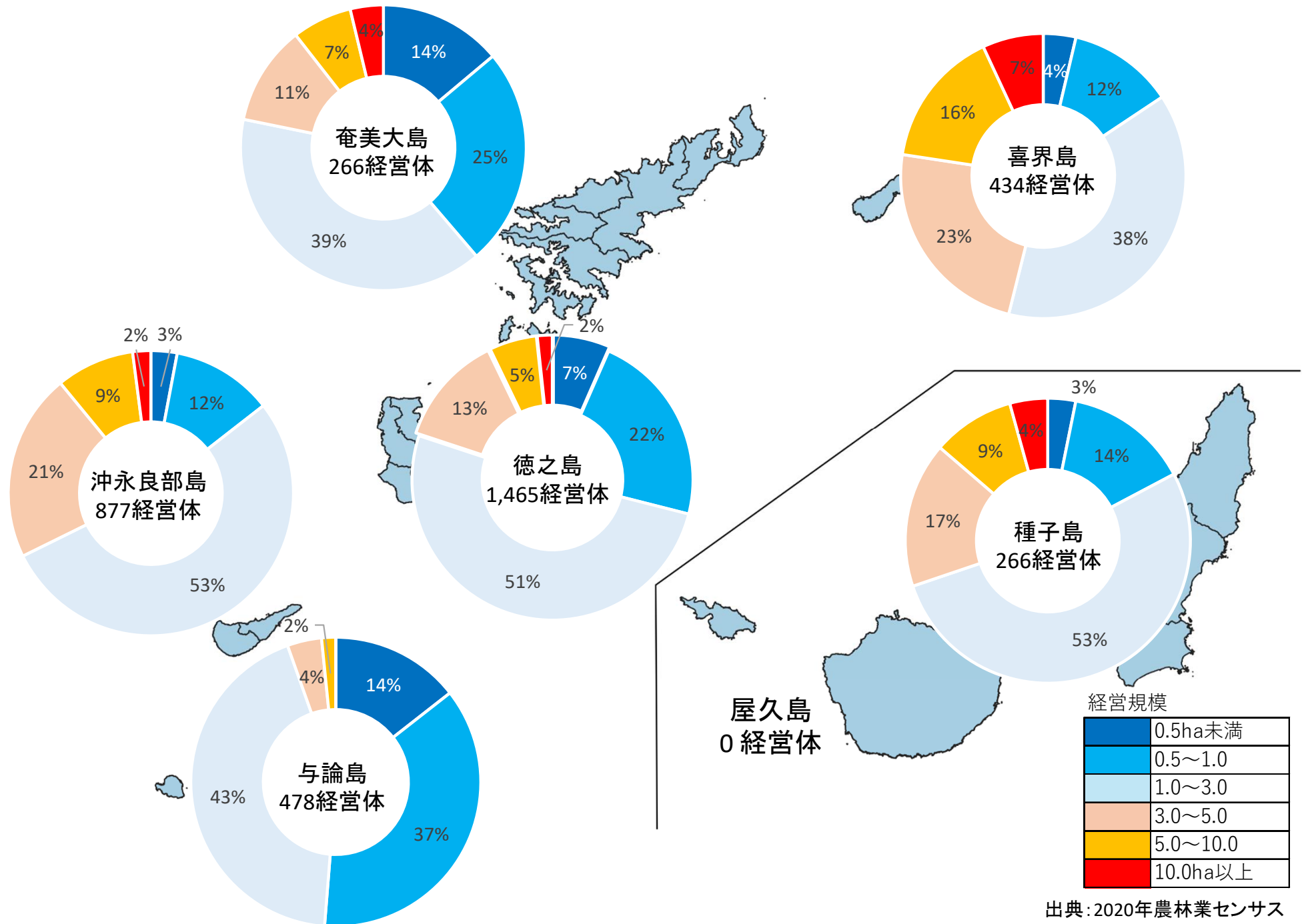
熊毛・大島地域のさとうきびの経営体数（島別・年齢構成別）



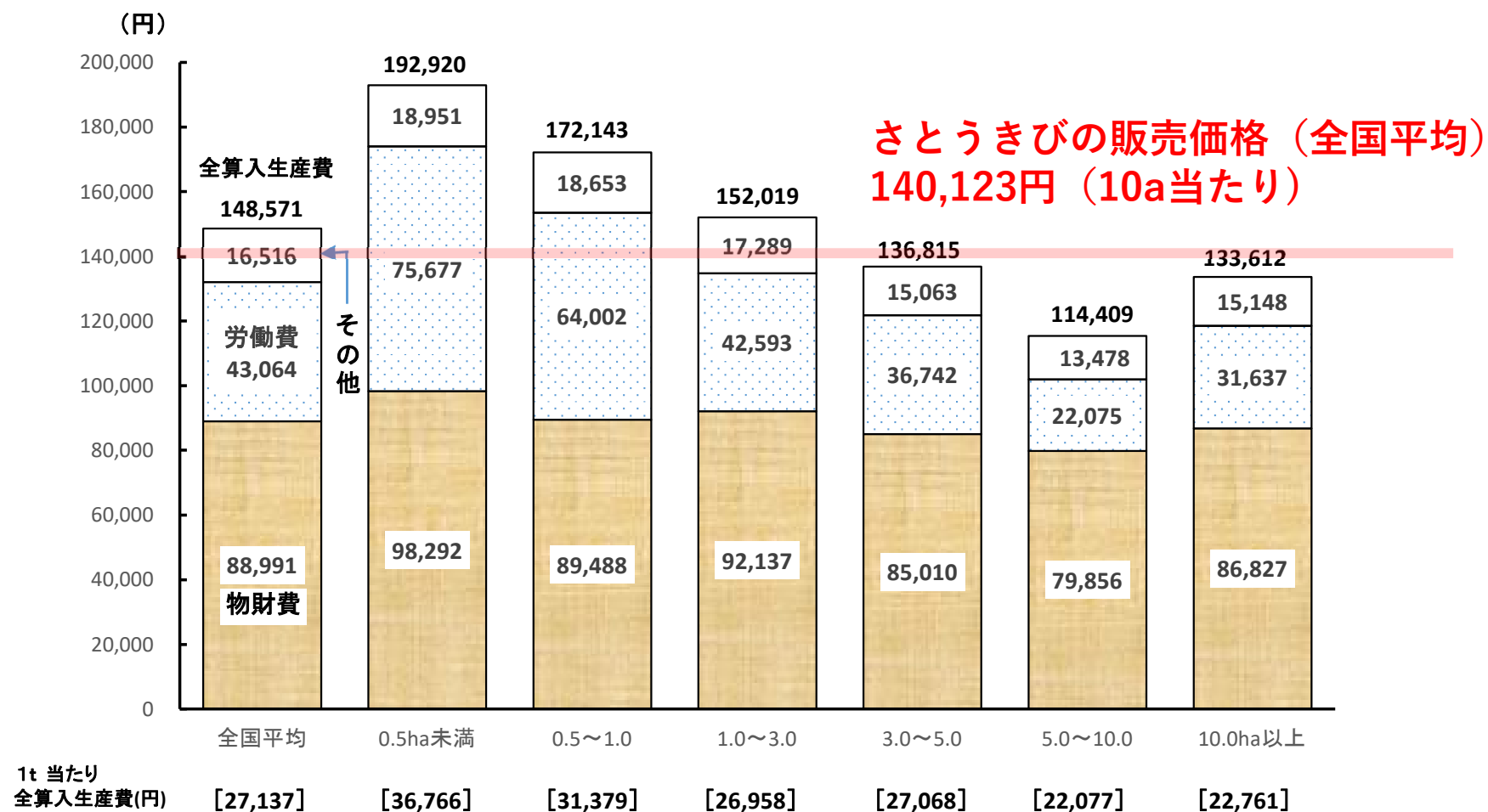
鹿児島県のさとうきびの経営体数（作柄表示地帯別・作付規模別）



熊毛・大島地域のさとうきびの経営体数（島別・作付規模別）



さとうきびの作付規模別の全算入生産費 (令和5年産・農業経営体・全国、10a当たり)



※ さとうきびの販売価格は、令和5年産のデータ

新たな食料・農業・農村基本計画（令和7年4月閣議決定） における「さとうきび」の目標 【沖縄・九州】

	2023年		2030年
生産量 ＜精糖換算＞	1 1 8 万トン ＜1 3 万トン＞	→	1 3 3 万トン ＜1 5 万トン＞
単収	5, 2 1 0 kg／10a	→	5, 9 4 3 kg／10a
作付面積	2. 7 万ha	→	2. 7 万ha

新たな食料・農業・農村基本計画における 「甘味資源作物（砂糖）」関係の記述

⑥ 甘味資源作物（砂糖）

ア 消費

我が国の砂糖（分蜜糖）の需要量は、**人口減少や消費者の低甘味嗜好等により近年減少傾向で推移**しており、**2003 砂糖年度**（当該年の 10 月から翌年の 9 月まで）に **217.4 万トン**であった需要量は、**2018 砂糖年度**は **183.5 万トン**まで、**2019 砂糖年度**は新型コロナウイルス感染症等の影響により、**172.1万トン**まで減少した。

2023 砂糖年度は **174.2 万トン**と緩やかに回復したが、砂糖の消費量は人口減少や消費者の低甘味嗜好等により引き続き減少すると見込まれ、甘味資源作物及び国内産糖の安定供給には、**砂糖の需要の維持・拡大が重要**である。

このため、新規需要開拓等により、需要の維持・拡大を図る。

イ 生産

国内のてん菜・さとうきびを原料とする国内産糖と輸入糖では内外価格差が生じている中、国内産糖の安定供給を図るためには、**糖価調整制度の持続可能性の向上**に取り組む必要がある。

(ii) さとうきび

高齢化や人手不足が課題となっている中で、**省力的な株出栽培や機械化の進展**などで生産環境が大きく変化しており、**労働時間は減少傾向**にある。

一方で、**栽培面積、生産量**については、**ほぼ横ばいから微減傾向、単収は自然災害等の影響により不安定**と見込まれる。

このような中、甘しや糖の産糖量については、豊凶変動や製糖歩留まりの影響を受けるものの、**近年は糖度が高い傾向であることもあり、ほぼ横ばい**にある。

このような状況を踏まえると、担い手・後継者の確保、作業受託組織の早期育成、収穫作業以外の管理作業等を含む機械化一貫体系の確立・普及を図る必要がある。

また、単収向上に向けた地力増進、品種転換、優良種苗の確保、畑地かんがいの推進、ほ場条件の整備を図るとともに、自然災害、鳥獣害、病虫害、外来・難防除雑草等への対応を図る必要がある。

このため、**農業機械の導入等による担い手・作業受託組織の育成**を推進するとともに、**地力増進等生産性向上の取組や多茎型など機械化適性品種の開発・普及、農地の大区画化、かんがい施設等の生産基盤の整備**を推進する。さらに、農業保険による対応に加え、基金を活用した自然災害による被害からの回復等への支援を行う。

ウ 加工・流通

てん菜やさとうきびの**分蜜糖工場**は、**工場の老朽化や、製造コストの増加、労働力不足等が課題**となっており、てん菜糖工場については、製造コストの低減、原料輸送等の効率化、**甘しや糖工場**については、**製造コストの低減、労働効率の向上、人材の確保・育成**を図る必要がある。

このため、てん菜糖工場について、中間受入施設や大型車両用導入に必要な設備等の整備を推進し、物流の効率化を図る。また、**甘しや糖工場**について、**省力化設備・施設の導入、人材確保・多能工の育成等を推進**し、安定的な操業体制を確立する。

さとうきび関係の主な支援

10 甘味資源作物生産支援対策

令和8年度予算概算決定額 10,542百万円（前年度 10,617百万円）

<対策のポイント>

甘味資源作物生産者、国内産糖製造事業者の経営の安定及び砂糖の安定供給を図るとともに、さとうきび等の自然災害からの回復に向けた取組等を支援します。

<事業目標>

- さとうきびの生産量の増加（133万t〔令和12年度まで〕）
- かんしょの生産量の増加（84万t〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

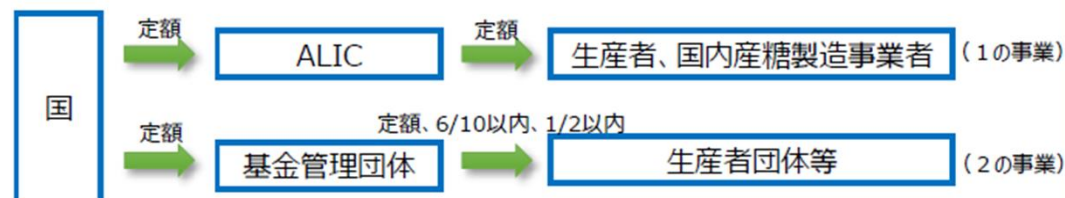
1. 甘味資源作物生産者等支援安定化対策 9,761百万円（前年度 9,836百万円）

国内産糖と輸入糖にある内外コスト格差を調整するため、（独）農畜産業振興機構（ALIC）が甘味資源作物生産者及び国内産糖製造事業者に交付する甘味資源作物及び国内産糖交付金の一部に相当する金額を同機構へ交付するとともに、生産者交付金の代理申請者の申請・支払事務経費への支援を行います。

2. 甘味資源作物安定生産体制確立事業 781百万円（前年度 781百万円）

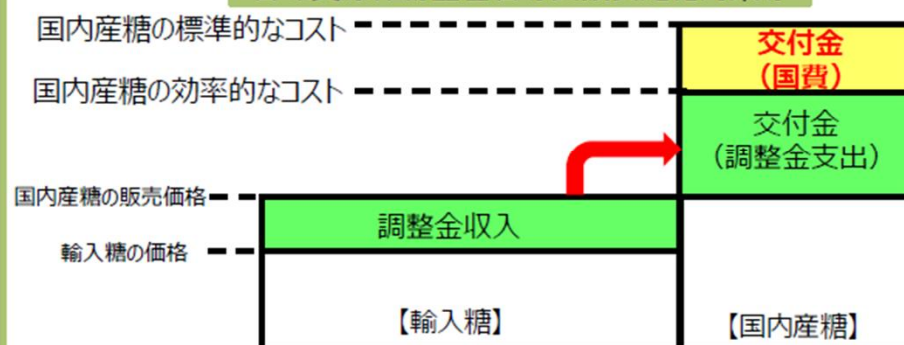
さとうきび増産基金により、さとうきびの台風、干ばつ、病害虫発生等の自然災害への対応及びかんしょの病害虫への対応を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

甘味資源作物生産者等支援安定化対策等



さとうきび増産基金

○さとうきび勘定

自然災害	主な対策
干ばつ	かん水
台風	除塩（散水）、苗の補植、改植
病害虫	病害虫防除
糖度減少	土づくり、株更新
その他の災害	災害の内容に応じた対策 株出管理作業、苗の確保 等

○かんしょ勘定 ・病害虫防除対策

	主な対策
当期作 への対応	・予防薬剤の散布
次期作 への対応	・苗・苗床の消毒 ・土壌消毒 ・健全な種いも・苗の導入 ・他作物への作付転換 等

【お問い合わせ先】 農産局地域作物課 （03-3501-3814）

10 畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業

令和7年度補正予算額 5,829百万円

<対策のポイント>

沖縄県、鹿児島県等のさとうきび・かんしょ産地や北海道の畑作地帯等の畑作物産地における、持続的な畑作物産地体制の構築を図るため、労働力不足や病害虫の発生、気候変動、需要構造の変化など地域・品目ごとの環境変化への対応に向けた取組等を支援します。

<事業目標>

- さとうきびの単収の向上・安定化（5,943kg/10a〔令和12年度まで〕）
- かんしょの生産量の増加（84万t〔令和12年度まで〕）
- ばれいしょの生産量の増加（233万t〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

1. 畑作物生産性向上支援事業

- ① さとうきび・かんしょ産地における持続可能な生産体制を構築するため、病害虫への対応や生産性向上等の取組を支援します。
- ② ばれいしょ・豆類・そば・なたね等の安定生産・供給体制を構築するため、種いも産地形成や実需と連携した産地モデル育成、新品種導入、湿害対策技術の導入、病害虫まん延防止対策、気候変動対策等の取組を支援します。
- ③ 需要動向等に対応した新たな生産体系の構築、労働負担軽減のための基幹作業の外部化や省力作業機械の導入、化学農薬・肥料の投入量を低減した栽培方法の実証、生産構造転換に向けた総合的な対策等の取組を支援します。

2. 畑作物加工・流通対策支援事業

- ① 分みつ糖・いもでん粉工場の労働生産性向上等の取組を支援します。
- ② 畑作物の持続的な生産を確保するため、インバウンド向け等市場調査、新商品の開発支援、マッチング等の取組を支援します。

3. 畑作物産地生産体制確立・強化整備事業

分みつ糖工場・いもでん粉工場の省力化による労働生産性向上や、かんしょ・ばれいしょの健全な種苗等の供給体制の強化に必要な施設整備等を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

畑作産地を取り巻く環境の変化や課題

- 労働力不足の顕在化
- 難防除病害虫の発生
- かんしょや加工用・でん粉原料用ばれいしょ、豆類、そば等の需要の高まり
- 気候変動への対応
- 減農薬・減化学肥料などの環境意識の高まり

等

地域・品目に応じた生産性向上、環境負荷・労働負担軽減による
持続可能な畑作生産体系の確立に向けた取組を支援

地域・品目に応じた生産性向上

- ▶ 地域の生産体制を支える担い手の育成
- ▶ 病害虫抵抗性品種の導入
- ▶ 複数年契約取引の拡大や新品種・安定生産対策技術の導入
- ▶ 基幹作業の外部化や省力機械の導入
- ▶ 需要動向や気候変動に対応した生産体系構築や環境に配慮した栽培方法の実証
- ▶ 輪作体系の確立に向けた生産構造転換に係る総合的な対策

<関連事業>

- ・産地生産基盤パワーアップ事業（8,000百万円の内数）
 - ・スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート緊急対策（15,658百万円の内数）
- 持続可能な畑作生産体系の確立や、労働生産性の高い農業構造への転換に向けた農業機械等の導入を支援

工場の生産性向上・流通対策

- ▶ 工場の人員配置、工程の見直しの取組、エネルギー転換に向けた調査
- ▶ インバウンド向け等消費拡大に係る市場調査、新商品の開発、新たな製品開発のための機械設備等の導入、甘味資源作物の他用途利用に向けた取組

産地体制強化のための施設整備

- ▶ 分みつ糖工場の集中管理、自動化等省力化施設、衛生管理の高度化施設、脱炭素機器設備の導入
- ▶ 健全な種苗等の供給体制の強化
- ▶ ばれいしょ供給体制の強化

【お問い合わせ先】 農産局地域作物課 （03-6744-2115）

さとうきび関係の現場からの主な意見・要望

○ 甘未資源作物交付金の見直し

(最近の資材価格等の高騰の実態を踏まえた交付単価の改定 など)

○ さとうきび生産体制の強化

(圃場の大区画化、デジタル技術の導入、生産者と工場が一体となった取組、製糖工場の老朽化・補修 など)

○ さとうきび製品の付加価値の向上、P R の強化

(有機栽培など環境にやさしい農業への転換、黒糖の販路拡大 など)

地球温暖化等の課題に対応するため、2050年を目標に、 「みどりの食料システム戦略」を策定しました！

(令和3年5月)

令和4年に、「みどりの食料システム法」を施行！

➤ 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現

(注) CO2ゼロエミッション化とは、2050年までに化石燃料起源のCO2排出量をゼロにすること。

➤ 化学農薬の使用量 (リスク換算) を50%低減

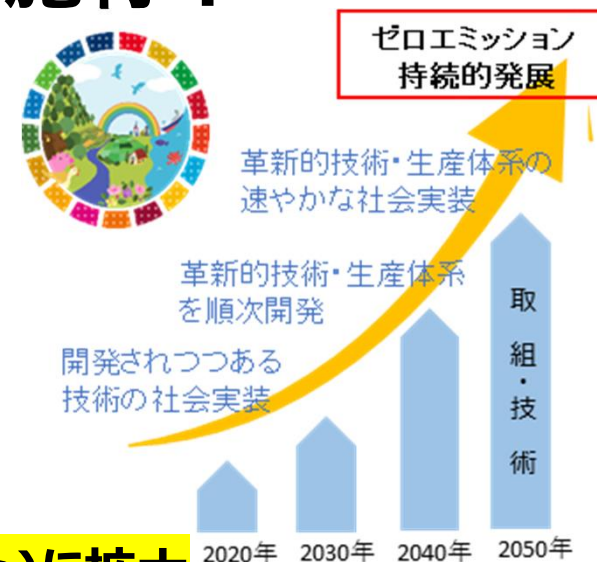
(基準：リスク換算値23,330 (2019年) ⇒ 実績：リスク換算値19,839 (2023年現在) 約15.0%減)

➤ 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減

(基準：90万トン (2016年) ⇒ 実績：68万トン (2023年現在) 約25.0%減)

➤ 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大

(基準：2.35万ha (2017年度) ⇒ 実績：3.45万ha (2023年現在) 約0.8%拡大)



経済



持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換 (肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大 など

社会



国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環 など

環境



将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献 など

鹿児島県も、「みどり食料システム法」の下、 環境負荷の低減に関する目標を策定しています！

【みどりの食料システムの実現に向けた指標】

化学農薬の使用量の減少 34kg/ha ⇒ 31kg/ha (R12)

化学肥料の使用量の減少 272kg/ha ⇒ 218kg/ha (R12)

有機農業取組面積の拡大 999ha ⇒ 2,000ha (R13)

(有機JAS認証取得割合) (80%) (90%)

バイオマス利用拡大 88% ⇒ 96% (R7)

産業部門における温室効果ガスの排出量の減少

2,388千トンCO₂ ⇒ 1,308千トンCO₂ (R12)

注1) 化学農薬使用量は、県内の農薬流通量（経営技術課調べ）を、延べ耕地面積で除したもの、目標は国基本方針の化学農薬使用量低減目標に準ずる。

注2) 化学肥料使用量は、主要肥料(10種類)都道府県別出荷量（（一財）農林統計協会「ポケット 肥料要覧」より）を延べ耕地面積（飼肥料作物を除く）で除したもの、目標は国基本方針の化学肥料使用量低減目標に準ずる。

注3) 有機農業取組面積及び有機JAS認証取得割合は、「鹿児島県有機農業推進計画」（令和3年3月）、バイオマス利用率は、「鹿児島県バイオマス活用推進計画」（平成29年3月）、産業部門における温室効果ガス排出量は「鹿児島県地球温暖化対策実行計画」（令和5年3月）による。

(参考) 有機農業等を広げるための主な政策支援

(みどりの食料システム法)

制度資金

- ・ 農業改良資金の特例（無利子）
- ・ 新事業活動促進資金（低利融資）など

税制措置

(青色申告)

- ・ みどり投資促進税制（特別償却）
所得税・法人税

消費

各種補助

- ・ 学校給食での利用（食材調達など）※
- ・ 環境教育、食育の推進（セミナーなど）
- ・ 域外の消費地との連携（消費拡大など）※
など

みえるらべる
環境負荷低減の
取組の見える化



流通

各種補助

- ・ 農業者と事業者のマッチング（PR販売など）※
- ・ 物流の効率化（機械、施設の整備など）
- ・ 有機農産物の加工品の製造（機械、施設の整備など）
- ・ オーガニックプロデューサーの派遣（販売戦略の提案・助言など）
など

Jクレジット

温室効果ガスの排出・
吸収量をクレジット化

生産

各種補助

- ・ 新たな栽培技術の実証※
- ・ 有機農業への転換（初年度20,000円以内/10a）
- ・ 環境保全型農業直接支払交付金（有機14,000円/10aなど）
- ・ 環境負荷低減に資する機械、施設の整備
- ・ 人材育成（農業者向け研修など）
など

など

農林水産省の
全ての補助金等に
「みどりチェック」
あり

生産から消費まで、一貫して有機農業を推進する地域ぐるみの取組

オーガニックビレッジ※

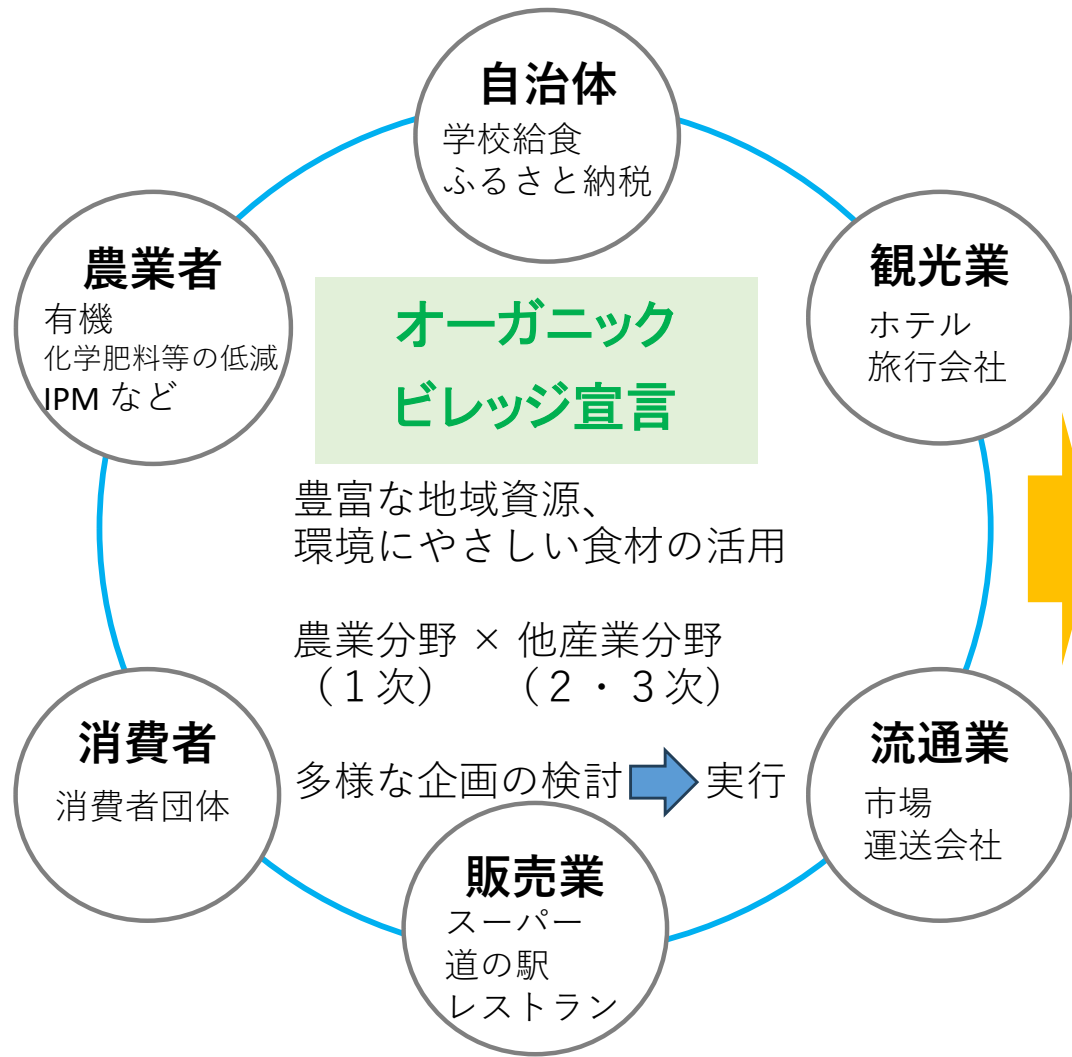
- ・ 1年目 有機農業実施計画（検討会の開催・試行的な取組）（上限1,000万円）
 - ・ 2年目 計画に基づく取組の実践（上限800万円） など
- ◎ 産地と消費地が連携した消費拡大の取組（上限200万円を加算）

各種補助

注：R8年度予算概算決定
をベースに作成

オーガニックをテーマに、 地域資源をフル活用し、鹿児島を盛り上げる！

- ・ 鹿児島には、自然、農産物等の地域資源が豊富
- ・ 各産業の関係者がコンソーシアムを組成し、
「オーガニックビレッジ宣言」
- ・ 各産業分野が連携し、
オーガニックをテーマとした各種イベントを企画
- ・ 農林水産省が政策等で後押し



有機農業の拡大



スーパーでの販売



ホテルでのイベント



観光ルートの確立



学校給食での地場食材の
活用（日本型食生活）



直売所・道の駅での販売



海外・国内の観光客
年間約2,000万人※

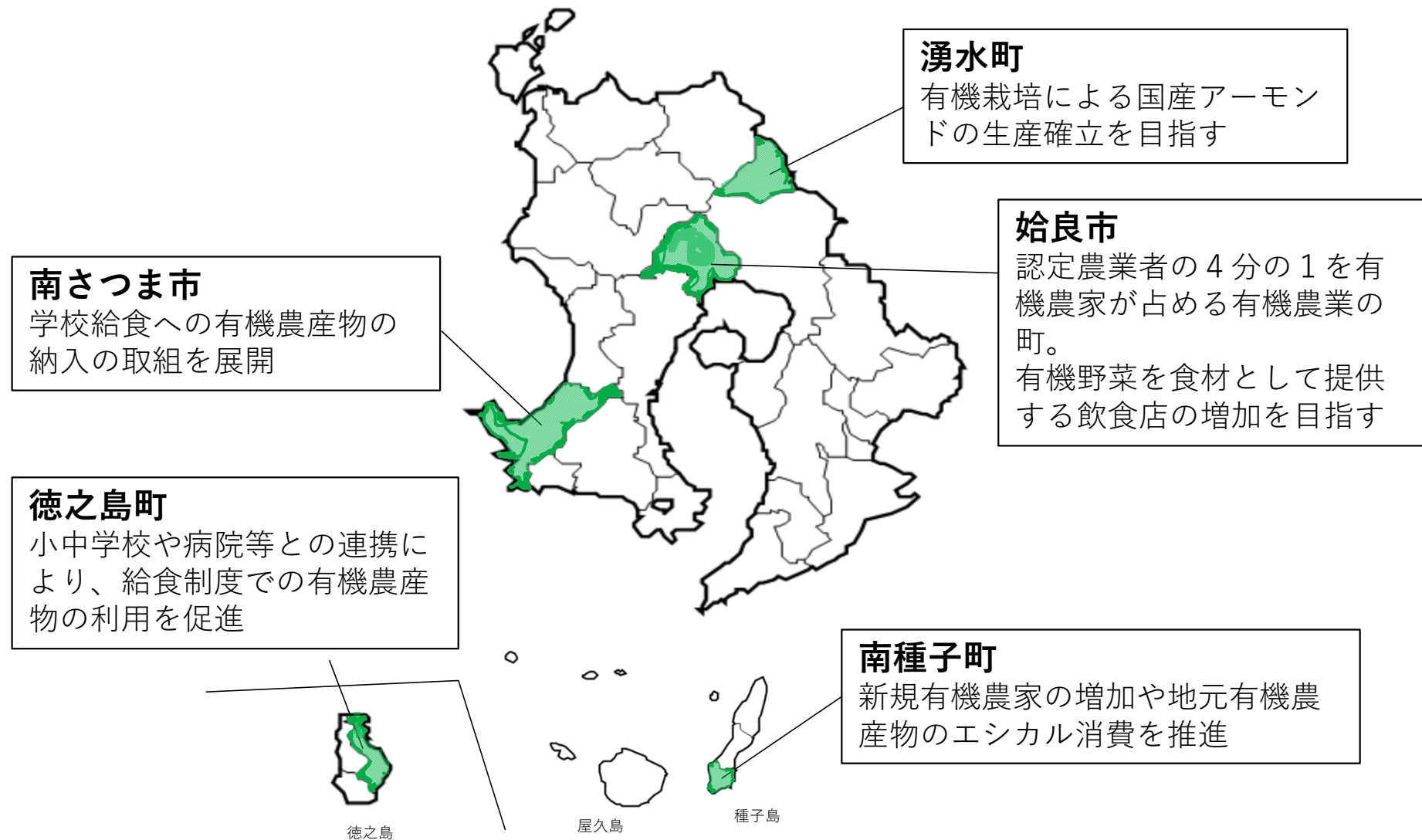


鹿児島・産業の持続的な発展

※R 6年「延べ宿泊者数」と「延べ日帰り客数」の合計（「鹿児島県観光統計」から引用）

「オーガニックビレッジ」宣言をしている鹿児島県の自治体

※「オーガニックビレッジ」とは、みどりの食料システム戦略推進交付金（有機農業産地づくり推進（緊急）事業）を活用し、有機農業の産地づくり等に取り組んでいる自治体。



※令和7年2月7日時点で、**5市町**

環境にやさしい農産物などを使用した料理教室

消費者に、環境にやさしい農業を知ってもらう、有機食材による郷土料理を作って食べてもらう、食育セミナーで日本型食生活の必要性を理解してもらい、地元の食材を食べることを習慣に！

【6月21日（土）】

有機野菜やIPMオクラなどの環境にやさしい農産物、暑さに強く品質が低下しにくい米として開発された「あきの舞」のほか、地産地消も意識して、ジビエ肉（鹿・猪）を使用。



鹿肉のスペアリブ・猪肉の味噌漬けにIPMオクラを添えて

【9月27日（土）】

かごしまブランドの農畜産物や有機野菜、有機調味料、**喜界島産の有機黒糖**などを使用。

※ 1月31日（土）は、GI産品、農業女子プロジェクトのメンバーの農畜産物などを使用し、「体温まる郷土料理」がテーマ。



有機黒糖をかけた甘酒ヨーグルトアイス

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ

https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/070621_Past_tense.html

オーガニック・地産地消等ツアールート

「自然」×「産業」×「有機食材等」➡ 鹿児島の付加価値向上！

鹿児島県の魅力を、県民、県外や海外からの観光客に披露し、おもてなしのヒントとしていただくため、7つのルートを作成。

ルートのQRコード
はこちら



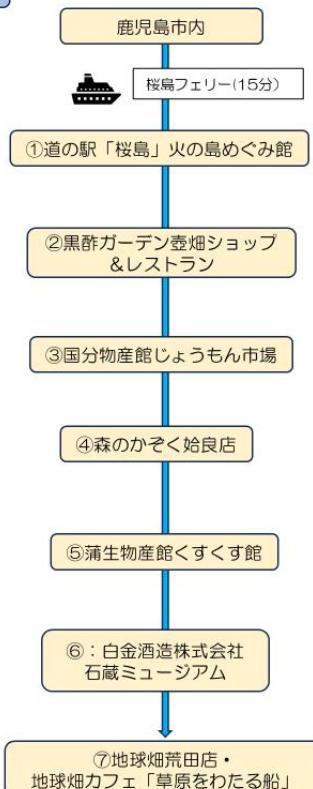
【お問い合わせ先】
九州農政局鹿児島県拠点
電話099-222-5840

九州農政局鹿児島県拠点のホームページ

[https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/Introduction to the course in the southern Satsuma area.html](https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/Introduction%20to%20the%20course%20in%20the%20southern%20Satsuma%20area.html)



モデルコース



鹿児島県のオーガニック・地産地消等ツアールート (種子島・屋久島)

モデルコース

①：(株)屋久島白川茶園

住所：熊毛郡屋久島町志戸子
985-15
メモ：有機茶。☎0997-42-1333



②：楠川の棚田

住所：屋久島町楠川地区



③：(有)屋久島八万寿茶園

住所：熊毛郡屋久島町小瀬田
532-24
メモ：有機茶販売。☎0997-43-5330



④：屋久島伝承蔵

住所：屋久島町安房2384
メモ：工場見学可（要予約）。
最終受付は15:30
製造時期は9月～11月
末
☎0997-46-2511



⑤：屋久島町まごころ市ぼん・たん館

住所：屋久島町麦生898-2
メモ：地元農産物・加工品など
販売。☎0997-47-2557



⑦：民泊 前岳荘

住所：屋久島町安房2517-27
メモ：完全有機・無農薬栽培
した自家農産物を使用。
☎0997-46-3886



①：高崎酒造(株) 本社・売店

住所：西之表市西町6993-1
※西之表港から徒歩5分
メモ：営業時間 午前9時～午後6時
(日曜・休み) ☎0997-22-0707



③：現和物産館

住所：西之表市西之表
10229-3
メモ：地元野菜や特産品
など販売。
☎0997-22-2851



⑤：おじゃりもうせ龍星館

住所：熊毛郡中種子町納官6624
メモ：地元野菜・土産品・各種加工品
など販売。☎0997-27-7936



②：高崎酒造(株) 安納工場（見学）

住所：西之表市安納字苗代岡
1861-2
※西之表港から車で15分
メモ：営業時間 午前9時～午後5時
(土曜・日曜・休み)
☎0997-25-0707
※工場見学（無料・試飲可）
事前に電話予約をお願いします。



④：こだわり工房ひょうたん島

住所：西之表市安城763-2
メモ：地元安納いもを使用した
スイートポテトなど販売。
☎0997-23-7274



⑥：種子島ジェラートHOP E

住所：熊毛郡南種子町平山500-130
メモ：地元農産物使用。☎0997-22-9566



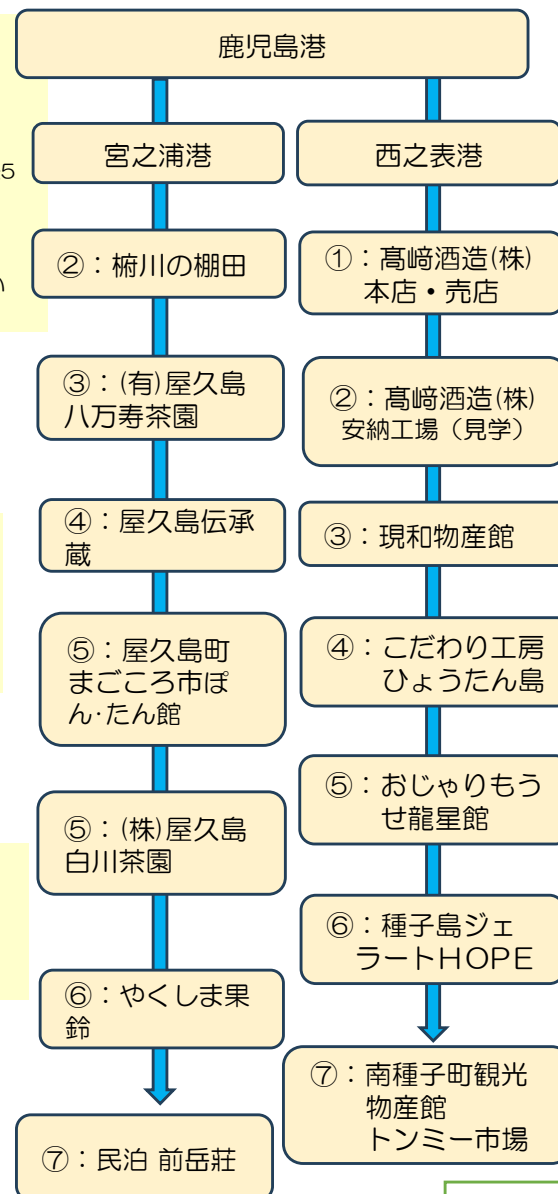
⑦：南種子町観光物産館 トンミー市場

住所：熊毛郡南種子町中之上2420-1
メモ：種子島の野菜・果物やお土産品
など販売。☎0997-26-2444



⑥：やくしま果鈴

住所：屋久島町尾之間672-1
メモ：島の食材を使用したスムージー
やジュース、地元お土産品など販売。
☎070-8940-6721



鹿児島県のオーガニック・地産地消等ツアールート (奄美大島)

②：奄美市ひと・もの交流プラザ 合同会社 味の郷かさり
住所：奄美市笠利町節田1717-1
メモ：地元野菜など販売。
☎0997-63-0771



③：それいゆふぁ〜む
住所：龍郷町赤尾木1346番1
メモ：ヤギの酪農と減農薬・減化学肥料による果樹栽培。
☎0997-69-4802



①：AMAMIバニラファーム カフェPolePole
住所：奄美市笠利町大字和野942番地
メモ：インドネシア産フェアトレードバニラと奄美の卵やフルーツを使ったスイーツ・料理。
☎080-8367-8754



⑫：大和まほろば館
住所：大和村大和49
メモ：名産のすももやたんかんのソフトクリーム、加工品、農作物など販売。
☎0997-57-2980



⑪：奄美フーズスタイル
住所：宇検村湯湾1101-1
メモ：宇検村の農産物を使った加工品製造とお土産品の販売。
☎0120-194-831



⑩：株式会社奄美大島開運酒造
住所：宇検村湯湾2924-2
メモ：黒糖焼酎。工場見学可(要予約)
☎0997-67-2753



⑨：せとうち海の駅
住所：瀬戸内町古仁屋大湊26-14
メモ：地元の養殖マグロ料理、地元野菜や特産品を販売。
☎0997-72-4626



⑧：道の駅 奄美大島住用
住所：奄美市住用町石原478
メモ：郷土料理「鶏飯」あり。黒潮の森 マングローブパーク内
☎0997-56-3355



⑥：あまみん&Tropica Amami
住所：龍郷町大勝578
メモ：農福連携によるジェラートとハーブティーを製造販売。
☎0997-62-5260



⑤：奄美大島酒造株式会社
住所：龍郷町浦1864-2
メモ：地元黒糖を使用した黒糖焼酎。工場見学可(要予約)
☎0997-62-3120



④：けいはんひさ倉
住所：龍郷町屋入516
メモ：奄美の郷土料理「鶏飯」。
☎0997-62-2988



モデルコース

鹿児島市内



①：AMAMIバニラファーム
カフェPolePole

②：奄美市ひと・もの交流
プラザ「味の郷かさり」

③：それいゆふぁ〜む

④：けいはんひさ倉

⑤：奄美大島酒造株式会社

⑥：あまみん&Tropica
Amami

⑦：町田酒造株式会社

⑧：道の駅 奄美大島住用

⑨：せとうち海の駅

⑩：株式会社奄美大島開運酒造

⑪：奄美フーズスタイル

⑫：大和まほろば館

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点では SNSの公開ページを開設しました！

農政の動き、鹿児島県拠点の活動レポートなど、
タイムリーに配信いたします！

Facebook



九州農政局鹿児島県拠点



リンク先
→<https://www.facebook.com/kagoshimakenkyoten>



Instagram



リンク先
→https://www.instagram.com/kagoshima_info2024/



X(エックス)



リンク先
→https://x.com/kyushu_kago



ご清聴、ありがとうございました。

**資料に関するお問い合わせは、
九州農政局鹿児島県拠点をお願いします。**

連絡先：099(222)5840

fujio_kuboyama350@maff.go.jp

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点のホームページ
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/index.html>



鹿児島県拠点 HP↓